見えない“配慮”感じる「やさしさ」

大阪府立工芸高等学校　３年
救仁郷（くにごう）　斗真（とうま）

今回、私が調査した場所は阿倍野区役所です。この街は、大阪南部の交通の要衝として発展し、住宅、商業の街として栄えてきました。また、高齢化率が市内で高いことや、多様な人々が暮らしていることから、この街に存在する「やさしさ」について気になったため調査を行いました。調査結果を大きく４つに分けて紹介します。

まず１つ目は、区役所前の歩道、歩行者用信号機のやさしさについて紹介します（写真１～３）。飲食店や公共施設の立ち並ぶあびこ筋沿いは、歩行者や自転車が多く行き交っているため、横断歩道には「高齢者等感応押しボタン」「視覚障がい者用押しボタン」が設置されています。これらは、青信号の延長、押しボタンの点字表記及び青信号時のブザーなど、高齢者や障がい者などが安全にアクセスできるように工夫されています。また、歩道は歩行者と自転車で動線を分け、安全かつ円滑な動線を確保しています。

２つ目は、区役所のスロープ、段差について紹介します（写真４・５）。正面入口には、両端に手すりが設置された幅が広く緩やかなスロープがあり、滑りにくい凹凸のあるタイルによって雨天などでも安全に利用できます。また、区役所内の段差にもスロープが設置されています。これらによって身体が不自由な方や車いすの方など、すべての利用者の方が一人での行動を可能とする配慮が施されています。

３つ目は、区役所内の窓口案内看板について紹介します（写真６）。施設内には、沢山の手続きや業務を行うスペースがあるため、利用者が利用しやすいように天井から窓口をわかりやすくする看板が設置されています。これにはスペース名、業務内容などが書かれており、施設内を視覚的情報を用いて利用者に伝えています。また、日本語･英語･韓国語･中国語の４か国語で説明が表記されており、多国籍な利用者にもわかりやすく、迷わずに目的の窓口へのアクセスを可能にしています。

４つ目は、バリアフリートイレについて紹介します（写真７）。高齢者や妊婦・乳幼児連れ、身体障がい者などの利用者が容易に利用できるように、入口が広く、力が弱い人でも開閉しやすい引戸が採用されています。また、内部空間はゆとりがあり、車いすでの移動や介助者との同時利用が可能な広さになっています。他にも、設備が充実しており、ベビーシート・ベビーチェアや呼び出し装置、複数の手すりが設置されていたり、内部の高さや寸法が低めに設定されていたりなど、使う人の立場に立った細かな配慮が溶け込んでいました。

このように阿倍野区役所にちりばめられた「やさしさ」は、誰かの不自由を想像する力が形になったものだと感じました。見過ごされがちな配慮が、ある人の心には届く。「やさしさ」は、目に見えないインフラであるのと同時に、誰かの不自由を支え、包み込み、自由へと羽ばたかせる。「やさしさ」は目立たないが確かに誰かを支える静かな配慮なのである。私はそんな「やさしさ」を感じて生きていきたい。

写真１　高齢者等感応押しボタン
視覚障がい者用押しボタン

写真２　歩行者用信号機ブザー

写真３　歩車分離歩道

写真４　区役所前スロープ

写真５　段差解消スロープ

写真６　窓口案内看板

写真７　バリアフリートイレ